

## ルクラ空港とジョムソム空港

特定非営利活動法人ミランクラブジャパン  
理事長 マナンダール マダープ ナラエン

私が登山家のテンジン・ノルゲイ氏に偶然会えたのは日本に留学する3年程前だった。現在ミランクラブネパールの会計担当サガル・マナンダール氏とダーズリンに行った時だった。まずインドのカルカッタを訪問、その季節のカルカッタはものすごい猛暑で、私たちは涼を求めダーズリンに行くことを思いついた。夜汽車に揺られ朝方着いたダーズリンは寒いくらいだった。私は2度目のダーズリン訪問だったので、案内役を務め、登山学校を訪れた。そこはテンジン・ノルゲイ氏が初代校長を務め、世界に登山の魅力を広める目的で開校された。訪れる人たちも自由に見学でき、登山の歴史や道具、写真等、展示されている。見学している際、案内役の女性からテンジン氏が今滞在していることを知らされ、合わせてくれた。彼はカトマンズから来た私たちを懐かしがって歓迎してくれた。彼自らの案内で展示物のエベレスト登頂した時の道具等を説明し、最後に一緒に写真に入ってくれた。とても気さくな人柄を感じることができ、嬉しかった。私たちは彼に会えた事をととても光栄に思い、それは記念すべき日となったのであった。

そのテンジンの名が付けられた空港が北東部ネパールのサガルマタ県のソルクンプ郡にある。標高2,860mのルクラである。ルクラ空港はエベレスト登山の起点となる空港である。先月6月23日、登山家の三浦雄一郎氏が80歳で3回目のエベレスト制覇を遂げたのは、まだ記憶に新しい。

1960年代に建設されたルクラ空港は、世界で最も危険な空港ランキングNo. 1として知られる。1953年5月29日にエベレスト(8,848m)世界初登頂に成功したニュージーランド生まれの登山家エドモンド・ヒラリー(在1919年~2008年)とネパールのクンプ地方育ちのテンジン・ノルゲイ(在1914年~1986年)の空港建設に

尽力した敬意を表して2008年1月にテンジンヒラリー空港と改名された。

ルクラはエベレストやヒマラヤ山脈トレッキングへ向かう登山の麓である。チベット語で「多くの山羊や羊のいる場所」を意味する。

エドモンド・ヒラリーはその後も登山時に世話になった村人への恩返しにエベレスト登山の麓であるソルクンプ地方の発展のため、村に学校を建て、協力を生涯に渡り続けた。

ルクラ空港は山々に囲まれた地形で険しいところにある。高地特有の薄い空気、突然変わる天候は飛行にリスクを伴う。物理的に長い滑走路は確保できないため、アスファルトの滑走路は長さ460m、幅20mの小さな空港である。世界で最も短い滑走路の一つであると言われている。また滑走路も平坦ではなく、急な12°の傾斜を有し、谷から山に向かって上昇している。着陸一方向のみの滑走路で、推奨される航空機も決まっている。空港に回路が存在しないためセスナ機が有効とされている。ここでの離着陸は一日に約25便以上もある。ピーク時は50便近くになる。空港は山に囲まれ、離陸は着陸と反対方向の山側から谷側へ向かう。着陸の合間を縫い離陸が行われる、とても忙しい空港である。

ルクラ空港でセスナ機以外に通行を許されているのはヘリコプター機である。空路はカトマンズ空港と結ばれている。

空港周辺の村には旅行者や登山客を迎えられるよう欧米食を提供する店や宿が沢山あり、道も整備されている。

エベレスト登頂までは行かなくても、エベレストベースキャンプトレックは人気のコースの一つだ。世界の最高峰エベレストを見るためのトレッキングである。世界最高峰14座の内、8座がネパールにある。その幾つかが間近で観られるトレッキングとなる。エベレスト、ローツェ、

カンチェンジュンガ、チョ・オユーや他の山々である。シェルパのガイドでルクラからエベレストベースキャンプ(5,356m)へ行き、次にゴキョピーク(5,545m)へ向かう約2週間のコースだ。ゴキョからはエベレスト、アマダブラム、ローチェ、ヌプチェ、プモリといったヒマラヤ山脈を一目で見られる。登山家にとって、この地域は地上の楽園に違いない。ルクラへはカトマンズから空路30~40分で着く。もう一つはカトマンズからジリまで約9時間バスに乗り、そこから昔ながらのトレッキングで5日間かけてルクラへ行く方法であるが、今は殆ど空路を使う。

この地方は山岳ガイドとして有名なシェルパ族が多く、その暮らしぶりも見る事ができる。

35年程前に私もルクラ空港を訪れたことがある。この時はまだ滑走路はアスファルトにされてなく、着陸前に見えてくる滑走路はとても短く、本当に着陸できるのだろうかと感じたことがある。また帰りの離陸時、滑走路から飛び立つ際は崖が見えて、離陸できなければ崖に落ちるのでとは心配になるほど険しい空港に思った記憶がある。

ルクラ空港と同じくらい危険な空港と言われているのがジヨムソム空港である。カトマンズから西北にあるダウラギリ県ムスタン郡の首都に位置し、アンナプルナ山脈のトレッキングの玄関口になって

いる。13日間前後のジヨムソム、ムクティナート、ゴダパニトレックが有名。このルートはアンナプルナ山脈を臨み、魚の尻尾の意味があるマチャプチャレを見ることができる。途中、美しい村マルファを見てポカラに帰還するコースに人気がある。アンナプルナ山系、ダウラギリ山等8,000m級の山々をポカラの反対側から見られるためでもある。現地でシェルパの手配などを頼むとトレッカー1人に付き700ドルで全行程のサービスを受けられる。

またヒンズー教徒にとっては神聖なムクティナート寺院(3,750m)があり、多くの巡礼者が訪れる。ムクティには解脱の意味がある。

空港は標高2,682mにあり、滑走路が長さ531m、幅19mのため、乗員・乗客を含めて22人乗りの小型機しか飛べない。飛行は山間を縫うようにして飛び、昼間の強風ため、離着陸は朝の時間帯のみである。それでも離着陸できずにフライトキャンセルや引き返すこともたびたびあるので、トレッキング日程には余裕を持たせた方が安心だ。ネパール式のピスターリ、ピスターリである。

この原稿執筆中にオーバーラン事故が起きてしまったことは残念なことだった。

一日に10便ほどで航空会社は民間の4社、殆どがポカラと結んでいる。ジヨムソムへは2、3年前に道路が整備され、車でも入れるようになった。



ルクラ空港とジヨムソム空港



ルクラ空港滑走路